

最後に言いたいこと

「科学概論」をここまでお読みいただき、心から感謝いたします。

ここで「科学概論」を終えるにあたり、この青山が言いたいことを以下にまとめました。ご意見などありましたら、ご遠慮なくお願いいたします。

人間は一人の例外もなく、自らの意志でこの世界に生まれてきたのではありません。何人であっても、生まれてきたことの意味など何もありません。いわば誰においても生まれてこなくても良かったのです。まさに理由もなく、気がついたときには、この世界に存在していたということです。

この世界を見渡して、明らかに言えること、この世界は「空」であるということです。それは誰しも、認めざるをえないことだと思います。「空」であるということは、この世界に意味はない。目的もない。方向性もない。ということです。

この世界に目的がないから、「人生の目的」もありません。人間はこの世界に生まれてきた時から死ぬまでの間に、為すべきこと、やらなければならないことなんて、一つもありません。何をしてもいいし、何一つせず死んでいくのも同じことです。

この世界は無意味、人生には万人共通の生きる目的などない。だからこそ人間は自由に、生きる目的を自分自身で設定することができるのです。人間は何をしてもいいし、何もしなくてもいいのです。即ち、人間は誰であっても「完全に自由」ということです。一切の束縛などありません。法律に従う必要もない。ある意味法に従うか、それとも従わないか、それは自分が自由に選択すればいいことです。合法か非合法か、そんなことはどうでもいいのです。

また人間はこの世で生きる目的など、もともとあるわけではありません。つまり何を目的にしてもいいのです。この空の世界において、人生に目的などない。ただし、予め決められた目的はありませんが、何のために生きる。何のためにそうする。何のためにそういった行動をとる。と問われたとき、「そうしたいから」では答えになっていない。それは人間の答えではありません。生物としての本能に使役された、生存欲を満たすための働きによる欲動というべきでしょう。それは犬や猫と同じでしょう。人間とは言えません。人間は何の束縛も受けず、何の指針もないところから、自分の責任において、自分の生きる目的を自分が決める。決めなければならないのです。そうでなければ人間ではなく、野生動物と同じです。

この世界は、あなたが観察した通り「空」です。ということは、この世界に意味はない。ならば、神も存在しない。人間は死とともに消滅して、死後の世界などない。それは明らかであり、あなたはまだ、神の存在や死後の世界を信じているのですか？あなたは正に騙されている。もしくは大変な思い違いをしています。目を覚ましましょう。この現実世界をありのままに観察してください。そこに神などいますか？いるとは誰にも言えません。やはり。あなたは思い違いをしていましたね。あなたは宗教団体に騙されていたのです。宗教がいかに悪なのか。この世界で今起こっているあらゆる悲劇（例えば、国家や民族間で起きているすべての戦争）の原因は“宗教”にあると断言します。人類が幸福になれない理由は、はっきり言って宗教にある。人類が宗教を捨てない限り、人間が幸福を手にすることはないでしょう。

我々が幸福を手に行かない最大の理由は、この世界が、まさに「空」であること（世界は無意味）を理解できない。即ち仏法を知らないことにあるのは明白です。この世の真理を知らないから、この世の本質を理解できないから、人は最大の過ちをおかすのです。仏法によればこの世はまさに「諸行無常」です。すべてのものは移り変わる。すべて

のものは消え去るのです。にも関わらず、無知な人間たちは、家庭や仕事、家族や会社、あるいは国家にしがみ付き、その永遠性を信じて疑わず、決して手放そうとはしない。ここに挙げたもの（国など）は、すべて消え去るものなのです。

この世が空であるなら、人間には優劣など一切ない。価値がある人間も価値のない人間もない。生まれてきてよかった人間、人類の役に立っている人間。そんな者は人類の歴史上一人もいません。人類はすべて平等です。社会に必要な人間、歴史上人類に貢献したな人間なども存在しません。誰が生まれてきても、誰が生まれてこなくても、同じことだと言えます。

あなたは、何のためにこの世で生きているのですか？生まれてきたから生きているだけ。何も生まれたいと思って生まれてきたのではない。確かにそうでしょう。しかし一旦生まれてきた以上、もはや生まれる以前に戻ることはできません。もはやあなたは“この世で生きること”以外は何もできないのです。

あなたは自由です。何をしてもいいのです。何をしなくてもいいのです。ただし、あなたが本能で生きている犬や猫、ハエやゴキブリとは違い、それを為す。それを行う。食べる。歩く。座る。寝る。話す。観察する。実験してみる。などの何らかの行為を主体的かつ意識的に、明確な目的を持って行うなら、それこそがあなたが人間である証だと言えます。その目的は、単にそうしたいからではなく、ある明確な理由があるはずですが、ではその目的とは何か？

答えは一つしかないでしょう。それは自分の幸福のため？いいえ違います。人間はこの世において、“自分で自分を幸福にする”ことはできないのです。自分の幸福は自分で築くのではなく、他者から与えられるのです。そして人間は一人の例外もなく最後には皆救われる。そうなっているのです。あるいはそう信じることしかできないのです。では誰がその幸福をあなたに与えてくれるのでしょうか？誰かが与えてくれるとしか答えようがありませんが、敢て言うならばそれは「神」です。

この世において、自らの努力によって自分の幸福を実現することは何人にとっても不可能です。ただし、人間は何をしてもあるいは何をしなくても誰しもが必ず救われるのです。最終的に他者によって幸福が与えられる。そう信じること以外は何もできない。

人間はいずれ誰一人取り残されず、地獄に行くこともなく皆救われるのであれば、人はこの世で何のために生きるのか？自分の幸福のためではありません。

その答えは、人間は、この世で、たった一人の隣人の幸福のために生きる。なぜならそれ以外何もできないから。その訳は、この世に存在している者は、自分と隣人の二人だけだからです。では隣人とは誰でしょう？特定の人物ではないことは確かでしょう。家族や友人とは限りません。名前すら知らない、その時初めて出会った人かもしれません。

「隣人」とは今現在、自分の行動によって幸福にできる人（人間だけとは限らない）を言うのです。

この世界で生きるということは、すなわちこの世界と関わるということ、それはあなたの隣にいる人に何かを為すということです。わたしたち人間はたった一人の隣人のためにこの世界に生まれてきたということです。

あなたには今現在、愛する人がいますか？その人のためなら死んでもいいと思いますか？全世界を敵に回して戦えますか？その人がもし今亡くなったら、それはあなたにとってこの宇宙が消滅するよりも大変なことだと言えるでしょう。たった一人の人でいいのです。人間は同時に二人の人を愛することはできない。「全体」なんかどうでもいいのです。大切なのは「個」です。その一人の人を愛するのなら、もはやあなたは何も恐れる必要はありません。何でもできる。世界を変えることも。

人間は何人もいずれ死ぬのであり、死を免れることは不可能。そして死は無を意味します。

この世に生まれてきて、愛する人がいない。こんな意味のないことはありません。もしあなたが、その人を愛しているなら、

なぜ、その人のために死のうとは思わないのか？

なぜ、その人のために世界を根底から、根本の根本からひっくり返そうとはしない！

なぜ、この空の世界において、今にしがみ付いているのだ！なぜ捨てようとししない。国家や人類よりももっともっと大切なものがあるのに！

もしも、生まれてきて世界を変えようとししない。一切を手放さない。愛する者がいない。のなら、この世界に生まれてきた意味はない。生まれてこない方が遥かによかったと言える。今呼吸している価値さえない。